

日本発のイノベーションに期待

「開会基調講演」

アントレプレナーII
チェンジ・エージェント



政策研究大学院大学教授
黒川 清氏

進取の気性が 社会を変える、世界を変える

日本で「アントレプレナー」というと、事業を起こす人と考えられがちだが、そうではない。よりふさわしい言葉は「進取の気性にあふれる人」「出るくい」だ。事業であれ、何であれ大きな夢と目標へ、新しいこと、楽しいことを、どうやったら実現できるかを常に考え行動し続け、社会に新しい価値を作り出していく人たちである。

このわずか1000年の間で、ライト兄弟、フォード、その後では本田宗一郎、ソニ

は、自分が何をやりたいかを見つけてくる。それを見つけてから悩んでいる若者は、まず現場に行くことだ。世界は広い、どこでもいいではないか。そこでいろいろな経験をし、さまざまな出会いから、人を知り、ネットワークができる、自分のやりたいことも見えてくる。世界の問題を知り、友人と共感し、自

分の燃えるものを探す、目標が見えてくる。これからはグローバルな人とのつながりが重要になる。学生時代に一緒に学ぶ、生活する、出会うことが実体験としての人たちとつながりを作り、志を共有すると、そのネットワークによって視野も機会も広がり、スピード感も増してくる。

自分の毎日の思考や行動の10、20、30%と、難しいと思っても自分がやりたいことを実現するための時間にしてほしい。頭で考えるだけでなく、ましてやできない理由を考えるのではない。一人ひとりが行動を起こし、「常識」を疑う、チャレンジする人が、この会場から一人でも多く現れることを期待している。

「基調講演」 ドラッカーが考えた イノベーションとその社会的意義



一橋大学名誉教授
野中郁次郎氏

個別具体から普遍をつかむ
幅広い形式知と暗黙知蓄積

イノベーションとは単なる技術革新ではない。「社会に与える影響において、社会的

モングッド（公益）に向かって個人、組織、社会が新しい価値を創造していくことが非常に重要になってくる。

ドラッカーは、イノベーションとは変化を探し、変化に対応し、変化を機会として利用する起業家が行うと定義した。ドラッカー自身は起業家ではないが、現実の出来事や人間の行動を自身のプリズムを通すことで社会の変化の本質を見抜き、全く新しい概念を多く創（つく）り出したという点において革新的であった。

個別具体の事例から普遍の本質をつかむことができたのは、ドラッカーが幅広い形式知を持ち、それらを論理的かつ創造的に連結させて、一見

GEWジャパンホスト：財団法人本田財団

「パネル討論」 ソーシャルイノベーションの 創出にむけて



- （パネリスト）（写真右から）
一般社団法人DSIA
常任理事 服部篤子氏
ヒューマン・キャピタル・マネジメント社長
ドラッカー学会理事
土井尚人氏
キッズベースキャンプ社長
島根太郎氏
政策研究大学院大学
アフリリエイテッドフエロー
インター代表取締役
齋藤ウイリアム氏
（モデレーター）
日本経済研究センター
特別顧問 小島 明氏

小島 ソーシャルイノベーションについて、皆さんの取り組みから。
島根 私は元々ミスマッチイノベーター田口弘氏が興したエムアウトにいた。新規事業だけを創出する会社で、当社は3年前その一事業として創業した。待機児童問題が注目される中、少子化社会と業界構造の変革を目的に民間学童保育に参入した。

従来福祉からサービス業の発想に立ち、時間延長や送迎、食事など官が応えられない顧客ニーズに徹した。1号店を開業すると、働く父母からの反響が大きく、その声援に押されて14店舗まで広がった。昨年12月には東京急行電

で、新しいことをすることに
よって価値を創出するという
意味がある。私がこれまで米
国でやってきた中でソーシャ
ルアントレプレナーと言える
例は、10年前、ITセキュリティ
の「警察」の資
格を与える制度を創設したこ
と。現在こうした人たちが約

わった。1つは、未来は自分でつくるものである。2つ目は、変化は常態であり、それを恐怖と感ずるか、機会と感ずるかで未来は全く変わってくる。

そうした教を胸にインキ
ュベーション会社を興した。
ドラッカー先生はよく「何に
よって憶（おぼ）えられたか」と話していたが、自分た
ちの存在意義、やりたいこと
を明確にすることが一番重要
だ。そして、自分たちの強み
を生かすことで社会に還元で
きると。

服部 海外では非営利、政府、ビジネスなど各セクター間で人材の流動化が根付いている。日本社会もそうならばアイデアも流動化し、より創造的なソーシャルイノベーションが生まれよう。経済的な成否だけでなく、社会に何を残したのか、それを社会に明確に発信していくことが起業家を後押しし、その数を増やすことにつながる。

グローバル・アントレプレナリシップ・ウィーク・ジャパン（GEWジャパン）が11月11日から23日まで13日間にわたり開催された。今年はマネジメントの父、ピーター・F・ドラッカー博士の生誕100年。これを記念し、日本における起業の現状と課題、ソーシャルイノベーション（社会変革）には何が必要か——有識者がさまざまな角度から議論を展開した。16日と20日のフォーラムから抜粋して紹介しよう。

島根 同感だ。失敗しても命まで取れないので、自分一人なら全財産を失っても、社会的に価値があると思えば挑戦できる。しかし、多くの人を巻き込んでいるとなると

島根 同感だ。失敗しても命まで取れないので、自分一人なら全財産を失っても、社会的に価値があると思えば挑戦できる。しかし、多くの人を巻き込んでいるとなると

小島氏（モデレーター）

イノベーションクーリエ

政策研究大学院大学（GRIPS）

日本経済新聞社

GEWジャパンホスト：財団法人本田財団

広告